

トゥース フェアリー

歯医者さんと患者さんですすめる社会貢献活動

TOOTH FAIRY



TOOTH
トゥース フェアリー
FAIRY



活動報告書 2015

特集 社会のなかで難病の子どもを育てる
ミャンマーで学校をつくるということ

CONTENTS

公益社団法人 日本歯科医師会 会長 メッセージ TOOTH FAIRYとは？	p.3
2015年度の活動	p.4
TOOTH FAIRYのとりくみ	p.5
特集 1	
チャレンジキッズプロジェクト	p.6
社会のなかで難病の子どもを育てる 難病児と家族を地域で孤立させないとりくみ	
難病の子どもと家族が安心して過ごせる場所の整備・建設	p.10
難病の子どもと家族へ、 1年に1度の特別な思い出をプレゼント	p.12
入院する子どもたちへ笑顔を届ける支援	p.14
難病の子どもと家族の生活を支える活動 子どもたちから届いた”サンキューレター”	p.15
特集 2	
「Given～いま、 ここ、にあるしあわせ～」	p.16
子育て、家族、そして、愛と幸せの物語 難病の子どもと家族のドキュメンタリー映画	
特集 3	
スクールプロジェクト	p.18
ミャンマーで学校をつくるということ 学校建設と村落支援	
ミャンマーってどんな国？	p.20
2015年度に建設した学校一覧	p.21
ボランティアの紹介、密着！ ミャンマーボランティアの一日	p.22
数字でみる TOOTH FAIRY	p.24
これからの TOOTH FAIRY スタッフからのご挨拶	p.26
寄付のお願い	p.27

難病や障がいを抱える子ども達と そのご家族を支えるために

日本歯科医師会が協力し、日本財団が主体となって実施している社会貢献活動「TOOTH FAIRYプロジェクト」が平成21年6月に産声を上げてから8年目を迎えました。参加歯科医療機関数も着実に増加を続けて6,200を超えるまでに至っております。また、これまでに8,000件超、総重量約3,500kgの歯科撤去金属等が寄付され、寄付金総額は約11億円に達しています。

「TOOTH FAIRYプロジェクト」は、治療で不要になった歯科撤去金属を患者さんのご理解の下に参加歯科医療機関が寄付し、そして寄付された金属を換金して得た資金等で進めている活動です。これまで、難病や障がいを抱える子ども達とその家族を支援し、安らぎや休息などを提供する事業や、ミャンマー国での学校建設事業等の支援活動が展開されています。

また「TOOTH FAIRYプロジェクト」では、平成27年11月、熊本県合志市に建設した「ボンボン」(人工呼吸器や胃ろうを常時必要とする子どもを預かり、休みなく看護を続ける

家族にひと時の休息と安心を届ける施設)を立ち上げておりますが、本年4月に発災した平成28年熊本地震の際にも、支援活動の一環としてしっかり機能したところであり、「TOOTH FAIRY」を通して、被災された地域の皆様の支援に少しでも役立つことができたのではないかと考えております。

今後とも本活動が、歯科医師・歯科医師会の果たすべき役割のひとつとしてさらに発展を続け、少しでも多くの難病と闘っている子ども達とその家族の支援等につながることを心から祈念しております。



公益社団法人 日本歯科医師会
会長 堀 憲郎

TOOTH FAIRYとは?

全国の歯科医師と患者様の協力により、
治療上撤去した不要な金属を集め寄付金にかえ、
難病や貧困と闘う子どもたちに夢と笑顔をプレゼントするプロジェクトです。
実施する事業は資金援助だけでなく、
ボランティア歯科医師による技術協力をいただき、
口腔ケアの重要性を啓発しています。
公益社団法人 日本歯科医師会協力のもと、2009年6月より開始し、
これまでに6,200以上の歯科医院にご賛同いただいています。



<p>治療によって 撤去された</p>	<p>役目を終えた金属が うまれかわり</p>	<p>子どもたちへ 夢と笑顔を プレゼント</p> <p>▲ 国内の難病の 子どもたちの支援</p> <p>▲ ミャンマーの 学校建設</p>
-------------------------	-----------------------------	---

2015年度
TOOTH FAIRYの活動

2015

5月
ミャンマー・エーヤワディ一地区に6校開校 合計24校建設完了



6月
ウィッシュパッケージング開催(沖縄県、東京都、大阪府、ほか)



10月
小児レスパイト施設「あっと名取」開所(宮城県)



10月
第79回 全国学校歯科保健研究大会にてブース出展(長野県)



11月
小児レスパイト施設「ボンボン」開所(熊本県)



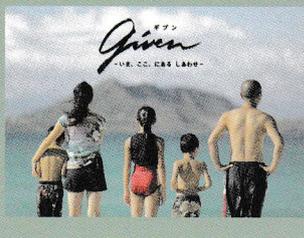
11月
難病児支援実務者ネットワーク会議 開催



2月
難病児と家族のキャンプ「そらぶちキッズキャンプ」開催(北海道)



2月
映画「Given ～いま、ここ、にある幸せ～」公開



3月
難病児のためのデイサービス拠点「うりずん」開所(栃木県)



7月
熊本県歯科医師会総会にて活動報告

7月
小児(1型)糖尿病キャンプスタート、歯科医師による口腔ケアボランティア実施



9月
和歌山県歯科医師会総会にて活動報告



8月
難病児サマーキャンプ「がんばれ共和国」開催(静岡県、熊本県)



11月
岩手県歯科医師会研修会にて活動報告

12月
金属寄付強化月間



1月
第4回 歯科医師によるミャンマーボランティアツアー実施



3月
クリニックラウン研修完了、新たに8名が認定クリニックラウンに

通年
入院する子どもたちへ笑顔を届ける支援



通年
難病の子どもと家族の生活を支える活動



TOOTH FAIRYのとりくみ

患者さんから寄付された金属が、 子どもたちの笑顔に

これまでTOOTH FAIRYに寄せられた金属は重さ約3.6トン、金額にして11億円。
国内で、国外で、子どもたちに笑顔を届ける支援がひろがっています。

難病の子どもと家族が
安心して過ごせる場所の
整備・建築

p.6



難病の子どもと家族へ、
1年に1度の特別な
思い出をプレゼント

p.12



入院する子どもたちへ
笑顔を届ける支援

p.14



難病の子どもと家族の生活を
支える活動

p.15



ミャンマー学校建設と
村落支援

p.18



国内
成果

7施設整備完了、
1万人以上がプログラムに参加

国外
成果

24校建設、
8,500人以上に教育を支援



大好きなスタッフさんと。看護師や介護士が常駐し、子どもと家族をサポートします。

社会のなかで 難病の子どもを育てる 難病児と家族を地域で孤立させないとりくみ

医学の発達に伴い、救うことができるいのちが増えた反面、

家庭のなかで子どもたちの介護を担う家族への支援が不足し、疲弊する人も少なくありません。

2016年春、栃木県に完成した新「うりずん」は、胃ろうや人工呼吸器など、医療ケアが必要な子どもを日中に預かり、
家族全体の生活をサポートすることができるようになりました。

利用者の瓦井千寿さん、尊くんかわらいちず たけるに、うりずんを利用した生活と、子育ての様様をうかがいました。

すべてが母の責任だと思っていた

「休日は家族でのんびり過ごし、春先はお花見やバーベキューに出かけます。尊はドライブが好きで、高速道路に乗ると喜ぶんです。」

尊くんは現在中学3年生。出生時低酸素性虚血性脳症のため、NICU（新生児特定集中治療室）と小児病棟を経て、3歳のときに退院し在宅介護へ移行しました。うりずんがオープンしてからは、週に1、2回、10時から16時の間に利用しています。帰宅後、夕飯と入浴を済まし、家族が就寝すると、人工呼吸器をつける尊くんのために、千寿さんは2時間おきに起きてケアをおこないます。

現在ではきょうだいも増え家族全員で暮らしている瓦井さんですが、尊くんが生まれた当時は、人工呼吸器をつけた子どもが家に帰ることは例が少なく、病院側の反応も厳しいものでした。

「一日も早く、最愛の息子と暮らすことを願っていました」生まれたばかりのわが子には病院でしか会うことができず、毎日のように泣いていた時、千寿さんが出会ったのが、後に「うりずん」を立ち上げる小児科医の高橋昭彦たかはしあきひこ先生でした。高橋先生を中心に、行政や病院へ小児在宅支援の呼びかけを懸命におこない、とうとう尊くんの在宅医療をはじめることができました。

ようやく家族全員の生活が始まったものの、介護と子育てに「ギリギリの状態だった」という千寿さん。幸いたくさんの方のサポートもあり、尊くんはすくすくと成長しましたが、日々の生活の中で戸惑うことも少なくなかったといいます。

「他の人から『尊くんは元気？』なんて、聞かれることはあっても、尊ではなく私に尋ねることに困惑していました。他の人は、私が尊の考えていることを分かっていると思って聞くんでしょうけれど、私にだってすべては分かりません。それでも、『我が子が何を考えているか分からない』とは言えなくて、なにもかも私の責任だと思っていました。辛かったです。」



「尊くん、お母さんに 言いたいことがあるみたい」

そんな状況のなか、千寿さんと尊くんがうりずんを利用してしばらく経ったあと、変化が起きました。

普段尊くんは、言葉や動作で自分の感情を発信することはできず、目や顔を動かすことで気持ちを伝えます。それまでは、尊くんの考えていることは母親の自分にしかわからないと思っていた千寿さんにとって、尊くんと仲の良い看護師から伝えられた、「尊くん、お母さんに言いたいことがあるみたいですよ」という言葉に、驚きを隠せなかったと言います。

「尊の考えていることを、自分以外に汲み取ってくれる人がいるんです。子どもにとって、家族以外の人とコミュニケーションできる場があることはありがたいことです」尊が母親の愚痴を言える場所なんて、ここしかありませんものねと笑いながら話す千寿さん。年少の子にお兄さん風をふかしたり、お友達と嬉しそう過ごしたりする尊くんの様子を医療スタッフから伝えられ、母の知らない子どもの姿に、成長を感じ、顔をほころばせました。

「家の中にだけいると、子どもにとっては親の考えが絶対的なものになってしまいます。逆に言えば、親が勝手に子どもの気持ちを汲み取って、子どもの本音を置き去りにしていることもたくさんあったと思います。自分の思いを息子に重ねていたんでしょうね」

うりずんを利用するようになって、子育てへの考えも変わったと感慨深く語りました。

すべてが母の責任だと思っていた

「休日は家族でのんびり過ごし、春先はお花見やバーベキューに出かけます。尊はドライブが好きで、高速道路に乗ると喜ぶんです。」

尊くんは現在中学3年生。出生時低酸素性虚血性脳症のため、NICU（新生児特定集中治療室）と小児病棟を経て、3歳のときに退院し在宅介護へ移行しました。うりずんがオープンしてからは、週に1、2回、10時から16時の間に利用しています。帰宅後、夕飯と入浴を済まし、家族が就寝すると、人工呼吸器をつける尊くんのために、千寿さんは2時間おきに起きてケアをおこないます。

現在ではきょうだいも増え家族全員で暮らしている瓦井さんですが、尊くんが生まれた当時は、人工呼吸器をつけた子どもが家に帰ることは例が少なく、病院側の反応も厳しいものでした。

「一日も早く、最愛の息子と暮らすことを願っていました」生まれたばかりのわが子には病院でしか会うことができず、毎日のように泣いていた時、千寿さんが出会ったのが、後に「うりずん」を立ち上げる小児科医の高橋昭彦^{たかはしあきひこ}先生でした。高橋先生を中心に、行政や病院へ小児在宅支援の呼びかけを懸命におこない、とうとう尊くんの在宅医療をはじめることができました。

ようやく家族全員の生活が始まったものの、介護と子育てに「ギリギリの状態だった」という千寿さん。幸いたくさんの方のサポートもあり、尊くんはすくすくと成長しましたが、日々の生活の中で戸惑うことも少なくなかったといいます。

「他の人から『尊くんは元気？』なんて、聞かれることはあっても、尊ではなく私に尋ねることに困惑していました。他の人は、私が尊の考えていることを分かっていると思って聞くんでしょうけれど、私にだってすべては分かりません。それでも、『我が子が何を考えているか分からない』とは言えなくて、なにもかも私の責任だと思っていました。辛かったです。」



「尊くん、お母さんに 言いたいことがあるみたい」

そんな状況のなか、千寿さんと尊くんがうりずんを利用してしばらく経ったあと、変化が起こりました。

普段尊くんは、言葉や動作で自分の感情を発信することはできず、目や顔を動かすことで気持ちを伝えます。それまでは、尊くんの考えていることは母親の自分にしかわからないと思っていた千寿さんにとって、尊くんと仲の良い看護師から伝えられた、「尊くん、お母さんに言いたいことがあるみたいですよ」という言葉に、驚きを隠せなかったと言います。

「尊の考えていることを、自分以外に汲み取ってくれる人がいるんです。子どもにとって、家族以外の人とコミュニケーションできる場があることはありがたいことです」尊が母親の愚痴を言える場所なんて、ここしかありませんものねと笑いながら話す千寿さん。年少の子にお兄さん風をふかしたり、お友達と嬉しそう過ごしたりする尊くんの様子を医療スタッフから伝えられ、母の知らない子どもの姿に、成長を感じ、顔をほころばせました。

「家の中にだけいると、子どもにとっては親の考えが絶対的なものになってしまいます。逆に言えば、親が勝手に子どもの気持ちを汲み取って、子どもの本音を置き去りにしていることもたくさんあったと思います。自分の思いを息子に重ねていたんでしょね」

うりずんを利用するようになって、子育てへの考えも変わったと感慨深く語りました。



やわらかい色合いの木目の部屋には自然と子どもたちやスタッフの笑い声が響きます。

社会のなかで子どもを育てる

「尊を預けている日は、きょうだいの用事を済ませたり、買い物にいったり、好きなことをしてリラックスしています」と言う千寿さん。うりずんを利用するようになってから、家族の生活を楽しむ余裕ができたそうです。

「重い病気や障がいがあっても、社会の中で子どもが多くの人と関わりながら育っていく場所は貴重です。今までは、私が頑張らなければと気負っていましたが、うりずんを利用するようになってゆっくり使える時間ができて、子育てや家族との生活を楽しむ余裕ができました」

もともと、「うりずん」は沖縄の言葉で、寒い冬が終わり、若葉がいっせいに咲き乱れる初夏(若夏)の日を意味します。千寿さんが、「子どもに障がいがあっても家族一緒に暮らしたい」と願って15年。千寿さんの夢のつぼみが芽吹きました。

「私と尊にとって、うりずんは夢のような場所。たくさんの方が子どもの成長を見守り、育ててくださることに感謝しています」



車で出かけることが好きという尊くん。「うりずんにいると家庭ではみせない顔がみれることが嬉しい」と母千寿子さん。



うりずん理事長 高橋 昭彦 先生 インタビュー

「どんな子どもでも、 どんな家族でも、 子育てができる 社会となるように」

たかはし あきひこ
高橋 昭彦 先生
(ひばりクリニック院長、認定
NPO法人うりずん理事長)
1985年自治医大卒。へ
き地の診療所等の勤務
を経て、2002年小児在
宅医療を中心とするひば
りクリニックを開業。08
年にクリニックに併設す
る形で、現在のうりずん
の前身となる、重症障
がい児者レスパイトケア施
設うりずんを開所した。
地域で医療活動に取り
組む医師を表彰する「日
本医師会赤ひげ大賞」等
受賞。

元々勤務医時代にへき地で在宅医療を経験し、「患者さんの生活を知らない」と介護者の本当の声が聞けない」という信念のもと、小児の在宅医療をおこなうためクリニックを独自に立ち上げました。

尊くんとは退院支援から携わり、10年以上訪問診療をおこなっています。尊くんが在宅医療に移行した2004年頃は、人工呼吸器をつけたお子さんを預かるサービスが不足しており、理解していながらも、自分が実行するのは難しいと考えていましたが、地域から孤立し、子どもの世話を誰にも頼ることができない家族の現状を知り、「私がやるしかない」と決心しました。

手探りの状態から開始したため、行政との調整、医療制度、資金や人材の確保など、運営するためにたくさんの困難もありましたが、たくさんの賛同者やTOOTH FAIRYの支援により、とうとう、新生うりずんをオープンすることができました。

今の日本は医療が進歩して重い障がいのあるお子さん、医療ケアが必要なお子さんが増えてきています。そういったお子さんは、どの家庭にも生まれる可能性があり、決して他人事ではありません。

どんな子どもでも、どんな家族でも、ちゃんと子育てができる社会となるように、医療や福祉だけでなく、さまざまな連携による支援が必要とされています。

うりずんが形になったのは、何より、尊くんを自宅につれて帰ると決意した瓦井夫妻の勇気がなければできませんでした。家族にとって、かけがえのない大切なお子さんをお預かりする以上、安全な環境で、安心してお子さんが過ごし、お子さん本人も楽しんで帰宅できる場所を目指しています。

全国の歯科医師と患者様のご寄付に感謝申し上げるとともに、同じ医療者として、難病や障がいのある子どもと家族へのご支援をお願い申し上げます。

重症障がい児と家族の生活をサポート「うりずん」

医療ケアが必要な重度心身障害児を対象にしたデイサービスの拠点を整備。心身の発達をサポートする日中のプログラムや在宅介護を支援する居宅介護(ホームヘルプ)、子どもたちのライフステージに応じた相談窓口などをおこない、24時間365日の介護をおこなう家族の生活をサポートします。

実施状況

2016年3月より利用開始。

建設費

128,800,000円

施設概要

デイサービス提供に必要なスペース及び居宅介護事務室、地域交流スペース等

プロジェクトパートナー

(特)うりずん(栃木県)



難病の子どもと家族が 安心して過ごせる場所の整備・建設

TOOTH FAIRYでは、日中一時預かりや家族みんなで利用できる場所の整備を、国内7ヶ所で実施しています。前頁で紹介したうりずん以外の活動をご紹介します。



難病の子どもと家族が安心してすごせる

「あおぞら共和国 TOOTH FAIRY ロッジ」(山梨県)

本事業のプロジェクトパートナーが管理する、山梨県北杜市の難病児が安心して利用できるキャンプ場「あおぞら共和国」に対し、4棟ある宿泊施設の内、1棟の建設。車いすなどでも不自由なく通ることができるように、駐車場からロッジを結ぶ通路(TOOTH FAIRYロード)の整備もおこなわれました。長期休暇を利用して、多くの家族の利用が見込まれています。

プロジェクト・パートナー

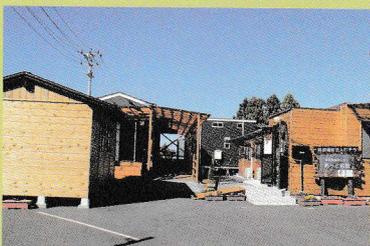
(認特)難病のこども支援全国ネットワーク(東京都)

実施状況

2016年4月より利用開始。

建設費

45,300,000円



難病児を日中に預かり、家族の生活を支援

「あつと名取」(宮城県)

東日本大震災により難病の子どもと家族をサポートが不足していた宮城県名取市に、難病や障がいのある子どもの日中一時預かりや入浴、食事の介助をおこない、家族の生活をサポートします。

プロジェクト・パートナー

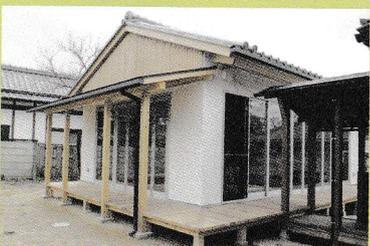
(社福)むそう(宮城県)

実施状況

2015年10月より利用開始。

建設費

30,700,000円



家族で奈良の観光を楽しむ

「奈良親子レスパイトハウス」(奈良県)

観光地としても人気の高い東大寺の境内と僧房の提供を受けて、難病の子どもと家族が家族全員で奈良の観光を楽しむサービスを実施。老朽化した建物を整備し、安心して宿泊できる場所を提供しています。

プロジェクト・パートナー

(一社)奈良親子レスパイトハウス

実施状況

2016年4月より利用開始。

建設費

15,500,000円



避難場所としても活躍した、難病児日中預かり施設

「ボンボン」(熊本県)

日中に難病児を一時預かる施設を建設。近隣の熊本市、合志市、菊池市、大津町などは、支援の必要性がありながら、難病児を日中受け入れる事業所がなく、需要の高い地域です。地方における難病児日中受け入れ施設として注目されています。

プロジェクト・パートナー

(特非)NEXTEP

実施状況

2015年11月より利用開始。

建設費

85,220,000円



小児がんから慢性疾患の子ども受け入れスタート

「チャイルド・ケモ・ハウス」(兵庫県)

小児がんの子どもたちに加え、小児慢性特定疾患全体に支援の対象が拡大しました。それに伴い、2015年4月より、神戸市、西宮市、尼崎市から「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」を受託し、相談支援事業をおこなっています。

プロジェクト・パートナー

(公財)チャイルド・ケモ・サポート基金(兵庫県)

実施状況

2012年3月開所

建設費

300,000,000円



大自然でのキャンプ安心して過ごすサポート

「そらぷちキッズキャンプ」(北海道)

豊かな自然に囲まれた北海道の難病児専門キャンプ施設に、停電時の緊急医療体制を確保するための無停電装置や、車いす利用も楽しむことができる木製遊具を設置。子どもたちが安心して過ごすための整備をおこないました。

プロジェクト・パートナー

(公財)そらぷちキッズキャンプ(北海道)

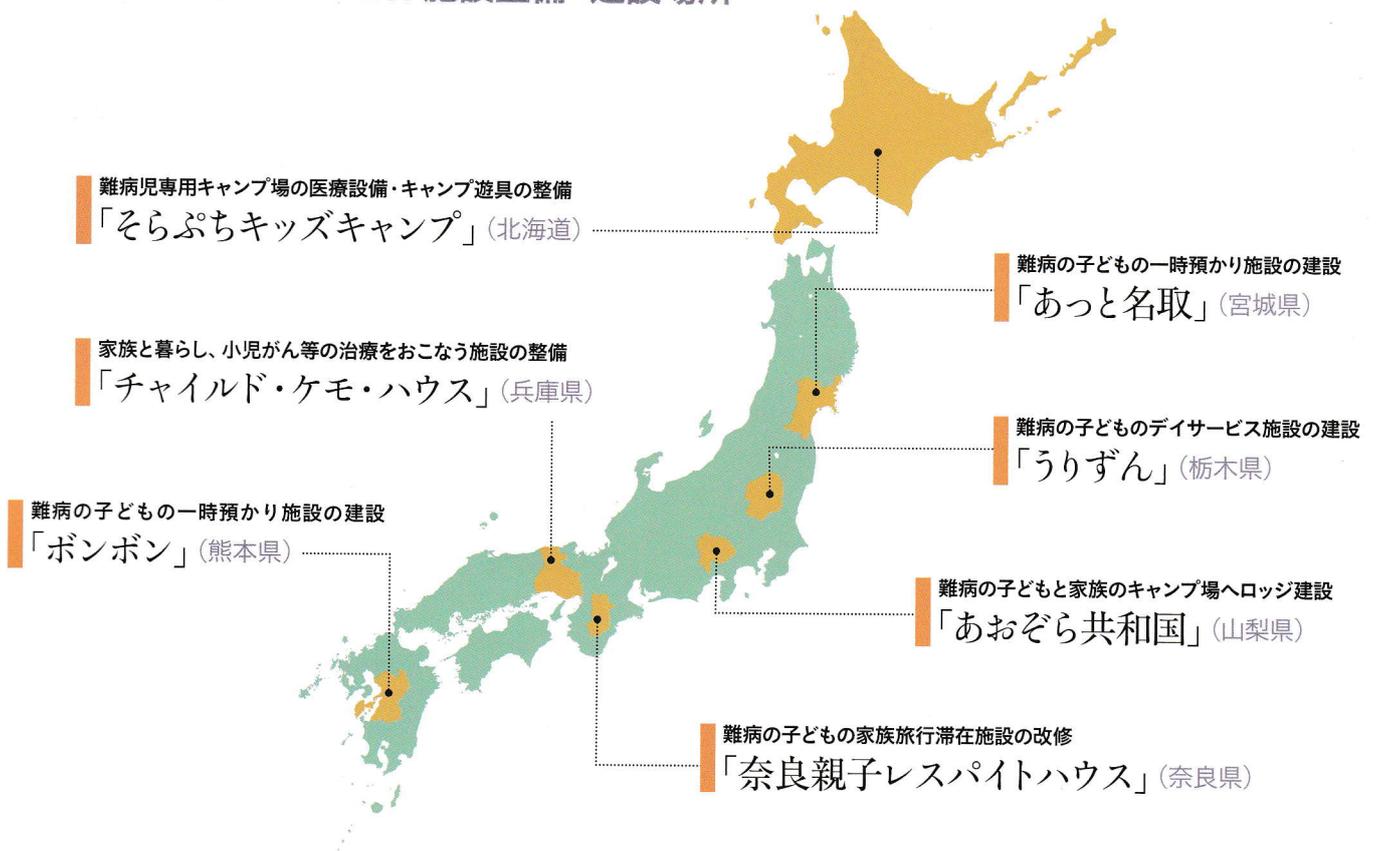
実施状況

2014年10月整備完了

施設設備費

12,900,000円

これまでのTOOTH FAIRY 施設整備・建設場所



2015年はTOOTHFAIRYの難病児支援施設が開所ラッシュ!

各地の歯科医師会からも、開所式への参加や、お祝いのメッセージをいただきました。地域のなかで、歯科と医科の連携がますます期待されています。



1. 山梨県歯科医師会 井出 公一 会長。「あおぞら共和国ロッジ」開所式に歯科医院で集めた金属持参で駆けつけていただきました。
2. 宮城県歯科医師会 細谷 仁憲 会長、山崎 猛男 常務理事。開所式に駆けつけていただき、祝辞と植林をおこなっていただきました。
3. 栃木県歯科医師会 宮下 均 副会長(当時)「うりずん」開所にむけて県歯を代表して祝辞をいただきました。
4. 熊本県菊池郡市歯科医師会 宮川 俊弥 会長。テープカットにご参加いただきました。
5. 奈良市歯科医師会 細田 博之 会長。「奈良親子レスパイトハウス」建物内に掲示する銅版ドナープレートを設置いただきました。

難病の子どもと家族へ、 1年に1度の 特別な思い出をプレゼント

家族全員で過ごす旅行の記憶は、次の1年を生きる活力となります。

重い医療機器や車いすの移動など、外出が困難な子どもと家族の旅行を支援しています。



小児(1型)糖尿病児の 学習キャンプ

インスリン自己注射や自己血糖測定を常に必要とする、小児(1型)糖尿病の子どもたちが、医師や薬剤師、栄養士の指導のもと、日常生活の中での糖尿病との付き合い方などを学ぶキャンプを実施。海水浴や山遊びなどのレクリエーション、糖尿病の勉強のほか、同じ病気のお友だちや先輩との交流を通じた、患児の心のケアもおこなっています。

全国で開催したキャンプには、TOOTH FAIRYの参加歯科医師がボランティアで口腔ケアの講話や歯みがき指導を実施しました。

支援団体

(公社)日本糖尿病協会(東京都)

実施状況

開催場所…全国47都道府県51ヵ所/参加者…患児1,224名/歯科ボランティア、医療ボランティア等5,083名 合計6,307名/開催時期…2015年7月~3月

支援金額

8,800,000円



難病の子どもと 家族のキャンプ 「がんばれ共和国」

難病の子どもと家族を対象としたサマーキャンプを開催。子どもたちと家族は大自然の中で、熱気球への搭乗体験や、バーベキュー、コンサート、家族の交流会などを楽しみました。キャンプでは、医師や看護師、介護士、理学療法士など医療関係の専門家と連携し、参加者が安心して過ごせる体制を提供しています。

静岡県、熊本県、神奈川県のキャンプでは、歯科医師と歯科衛生士による口腔ケアの相談・啓発ボランティアをおこないました。

支援団体

(認特)難病のこども支援全国ネットワーク(東京都)

実施状況

開催場所…2ヵ所(静岡県、熊本県)/参加者…58家族338名/開催時期…2015年8月

支援金額

7,000,000円



北海道の大自然を満喫 「そらぶちキッズキャンプ」

北海道滝川市にある豊かな自然に囲まれた難病児専門キャンプ場にて、ウィンターキャンプを開催。医療スタッフサポートのもと、家族はそり遊びや雪遊びを楽しみ、冬の北海道の大自然の中で、病気を忘れて時間を過ごしました。

支援団体

(公財)そらぶちキッズキャンプ(北海道)

実施状況

開催場所…北海道滝川市/参加者…小児がんの子どもとその家族 4家族 14名/開催時期…2016年2月

支援金額

4,000,000円



家族全員に 特別な思い出と安らぎを 「ウィッシュ・バケーション」

難病と闘う子どもと家族が、日常生活の中では体験できない旅行を支援。外出が難しい子どもや家族に対しては、アーティストやシェフを自宅に派遣し、闘病生活を送る家族に安らぎの時間を提供しました。

また、参加家族と支援者が交流するギビングサンクスパーティーや、多くの人に難病の子どもと家族の姿を知ってもらうため、写真展や報告会を開催しました。

支援団体

(公社)難病の子どもとその家族へ夢を(東京都)

実施状況

a. ウィッシュ・バケーション/開催場所…東京、大阪など/参加者…29家族 計119名/開催時期…2015年5月~2016年3月

b. 訪問型ウィッシュ・バケーション(ホームパーティープログラム)/開催場所…埼玉、大阪など(病院または自宅)/参加者…5家族 計67名/開催時期…2015年5月~2016年3月

c. 難病と闘う家族の写真展と活動報告会/開催場所…東京、宮城、大阪/参加者…189名/開催時期…2015年6月~2016年3月

d. ギビングサンクスパーティー/開催場所…東京、大阪/参加者…245名/開催時期…2015年5月~10月

e. 写真活動報告集作成/製作時期…2015年11月~2016年3月

支援金額

8,000,000円

2015年度 歯科医師による ボランティア実施場所



- 糖尿病…山形、茨城、山梨、東京(2ヶ所)、神奈川(2ヶ所)、静岡、石川、福井、大阪、奈良、和歌山、兵庫、岡山、山口、徳島、佐賀、大分、熊本、宮崎
- がんばれ共和国…神奈川、静岡、熊本



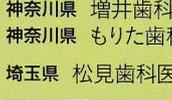
石川県 塚本歯科医院 塚本 尚弘先生



山形県 沼澤歯科医院 沼澤 孝典先生
沼澤 由紀先生



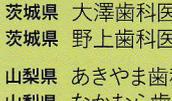
神奈川県 塚田医院歯科 塚田 美紀先生
神奈川県 笹川矯正歯科 笹川 円先生
神奈川県 横浜保土ヶ谷
中央病院 小泉 文先生
中村 優里先生



神奈川県 増井歯科医院 増井 峰夫先生
神奈川県 もりた歯科医院 盛田 健司先生



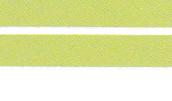
埼玉県 松見歯科医院 松見 秀之先生



東京都 みさき歯科医院 熊川 貴昭先生
東京都 澤田歯科医院 澤田 章司先生
東京都 多摩歯科医院 鈴木 康之先生



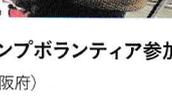
茨城県 大澤歯科医院 大澤 薫先生
茨城県 野上歯科医院 野上 俊雄先生



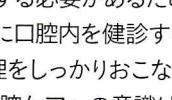
山梨県 あきやま歯科医院 秋山 賢一先生
山梨県 なかむら歯科 中村 猛先生
山梨県 わかくさ歯科 孔 俊樹先生



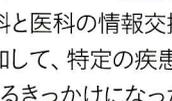
静岡県 又平歯科医院 又平 基史先生



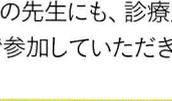
静岡県 浅倉歯科医院 浅倉 達也先生



奈良県 奥歯科医院 奥 忠之先生



奈良県 西川歯科医院 西川 佳嗣先生



奈良県 ライオン歯科衛生研究所 藤井 由希先生

- 福井県 多田歯科クリニック 多田 伸一郎先生
- 大阪府 今井歯科診療所 今井 敦子先生
- 大阪府 上原歯科医院 上原 裕之先生
- 大阪府 奥歯科医院 奥 忠之先生
- 兵庫県 井上歯科クリニック 井上 修一先生
- 兵庫県 前田歯科医院 前田 龍一先生
- 岡山県 PMJ 歯科診療所 黒瀬 真由美先生
- 山口県 黒石デンタルクリニック 東村 石万先生
- 山口県 ふくなが歯科医院 福永 恭紀先生
- 佐賀県 おき歯科医院 沖 宜親先生
- 大分県 高橋歯科医院 南部 貴志先生
- 熊本県 森口歯科医院 森口 茂樹先生
- 熊本県 伊藤歯科医院 伊藤 明彦先生
- 熊本県 ひまわり歯科 伊藤 道子先生
- 宮崎県 相馬歯科医院 相馬 博先生
- 徳島県 徳島県歯科医師会 岡本 好史先生
谷本 良司先生



和歌山県 中谷医科歯科病院 中井 公美子先生

病気とお口の健康は ふか〜い関係があるんです! 難病児キャンプで 活躍する 歯科医師ボランティア

TOOTH FAIRYの支援はキャンプの開催費など資金を援助するだけでなく、歯科医師や歯科衛生士により、お口の健康を子どもたちや家族に伝えるボランティア支援をおこなっています。2015年度は全国で24箇所40人の歯科医師にご協力いただき、子どもたちの症状ごとの、口腔チェックやアドバイスも好評でした。ボランティアに参加した先生に、お話をうかがいました。



小児(1型)糖尿病児キャンプボランティア参加者のコメント
奥 忠之先生(奥歯科医院・大阪府)

糖尿病の子どもたちは、血糖値を安定させるために頻繁に菓子や夜食を摂取する必要があるため、う触のリスクは高いです。しかし、実際に口腔内を健診すると一般と変わらず、むしろ闘病上自己管理をしっかりおこなっているせいか、同年齢の子どもよりも口腔ケアへの意識は高く感じました。ボランティアでは歯科健診のほかに講義も好評で、特に、小児科医や看護師とは歯科と医科の情報交換の場になりました。

今回キャンプに参加して、特定の疾患グループを診ることで、自分の幅を広げるきっかけになったと思います。TOOTH FAIRYは金属を寄付することで簡単にできるボランティアです。ぜひ他の先生にも、診療所にいるだけでなく、寄付や技術支援で参加していただきたいです。

入院する子どもたちへ笑顔を届ける支援

闘病のため入院する子どもたちは、つらい検査や闘病生活に耐えると同時に、家庭や学校から切り離され、不安な日々を過ごしています。入院していても日々成長する子どもたちをサポートするため、スペシャリストたちにより子どもたちに笑顔を届ける活動をおこなっています。



入院する子どもに寄り添う ファシリテッドッグによるケア

ファシリテッドッグとは、特別に訓練された病院に常駐する犬のこと。

小児病棟の子どものベッドサイドや手術に付き添い、闘病する子どもたちの苦痛や不安を和らげます。

プロジェクト・パートナー

(認特)シャイン・オン! キッズ(東京都)

実施状況

2016年4月より利用開始。/場所と対象者…a. 静岡県立子ども病院 1842名 b. 神奈川県立子ども医療センター 3034名/時期…年間(月～金)を通じて実施

支援金額

6,000,000円



病室の子どもに笑顔を届ける クリニックラウン

入院生活を送る子どもの病室を訪問し、遊びやコミュニケーションを通して、子どもたちの成長をサポートするクリニックラウンの育成と、活動支援を行いました。

2015年度は、8名の研修生が認定試験に合格しました。レスパイト活動では、全国の大学病院や子ども病院を計29回訪問しました。



遊びを通じて闘病する 子どもの発育を支援

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)と呼ばれる小児緩和ケアの訓練を受けた専門家による遊びをつかった発育支援。ポーリングや的あて、シャボン玉など、手先や感覚を使った遊びを通じて、病児や障がい児が医療とのかかわりを肯定的に捉えられるよう支援しました。

プロジェクト・パートナー

(特)ホスピタルプレイ協会(静岡県)

実施状況

場所…東北、静岡、福井、九州の小児病棟、自宅等/実施回数…51回/時期…2015年4月～2017年3月/参加者…難病の子どもとその家族 170名以上

支援金額

3,150,000円

アートを通じて、入院する 子どもの発育を支援

小児病棟等の患児たちの不安を軽減し、前向きな気持ちで闘病生活に臨むため、マジシャンや画家、演奏家などプロのパフォーマーを派遣しました。

プロジェクト・パートナー

(特)スマイリングホスピタルジャパン(東京都)

実施状況

開催場所…北海道、宮城、東京、神奈川、大阪、京都など医療施設や小児病棟など16施設/開催時期…通年/回数…242回/参加者…6,080名

支援金額

2,500,000円



プロジェクト・パートナー

(特)日本クリニックラウン協会(大阪府)

実施状況

a. クリニックラウンの育成研修/開催場所…大阪府赤十字血液センターほか対象者…研修生8名/開催時期…2015年4月～2016年3月
b. クリニックラウンの訪問/訪問場所…宮城、千葉、茨城など医療施設の小児病棟/訪問回数…計29回/対象者…入院中の子ども 約900名

支援金額

6,000,000円

※対象者数は病棟内子ども数平均30～35名×訪問数にて算出。

難病の子どもと家族の生活を支える活動

在宅で常時看護をおこなう家庭へ、看護師などの医療チームを派遣し、家族にはひと時の休息を、子どもたちには楽しい活動を届ける訪問支援を実施。また、国内の小児難病児支援を向上するための取り組みをおこなっています。



在宅看護を必要とする難病児と家族の支援

難病の子どもとその家族を対象に、病状や希望に応じたレスパイトサービスを提供しました。それぞれ適切なサポートを行うことができるよう、ボランティアの育成・研修も行いました。

プロジェクト・パートナー

(一社)こどものホスピスプロジェクト(大阪府)

実施状況

開催時期…通年/開催場所…大阪市立総合医療センター等/
対象者…難病の子どもと家族 644名、ボランティアの育成・研修 162名/内容詳細…a.自宅訪問によるレスパイト 36回 72名、院内訪問によるレスパイト 12回 189名、わくわくタイム(デイケア) 5回 106名、わくわくプレスクール(就学前デイケア)8回 114名、トラベルメイト(小旅行支援) 8回 119名、小児科外来交流会 2回 44名 b.ボランティア育成・研修 15回 162名

支援金額

9,990,000円



国内の小児難病児支援を強化

主にTOOTH FAIRYで支援している、小児ホスピスやレスパイト活動を行う団体の実務者によるネットワークを構築するための会議を開催。施設見学、活動事例報告、意見交換会など通して、各地から集まった実践者が、課題やノウハウの共有を行いました。

プロジェクト・パートナー

(公財)そらぶちキッズキャンプ(北海道)

実施状況

a.2015年11月20日(東京、6団体参加)
b.2016年2月24日(兵庫、6団体参加)

支援金額

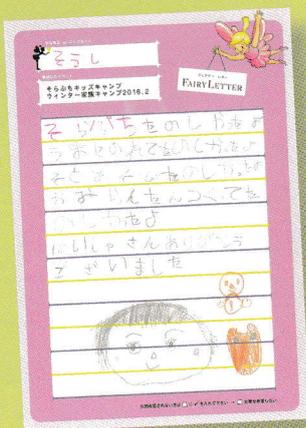
2,700,000円

歯医者さん、ありがとう! 子どもたちから届いたサンキュー

TOOTHFAIRYのプログラムに参加した子どもたちから届いた「ありがとう」の声をご紹介します。

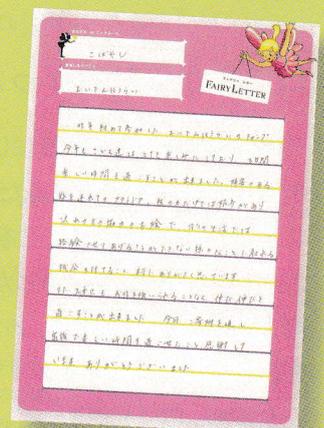
難病の子どもキャンプに参加したそうしさん

「うまにのれてたのしかった。はいしゃさんありがとうございました。」



難病の子どもと家族の旅行に参加したこばやしさん

「障がいのある娘を連れてのアウトドアは親の力だけでは限界があり、日々の生活では経験させてあげることができない様々なことに触れる機会が持て、本当にありがたく思っています。また、きょうだい児も我慢を強いられることなく伸び伸びと過ごすことができました。今回のご寄付を通して家族で楽しい時間を過ごせたこと感謝しています。ありがとうございました。」





子育て、家族、そして、愛と幸せの物語 難病の子どもと家族のドキュメンタリー映画

「Given～いま、ここ、にあるしあわせ～」

「難病の子ども」を扱った映画、と聞いて、どんなイメージをもちますか？

悲しい話？ 辛い話？ それとも専門用語が飛び交う難しい話でしょうか？

(公社)日本歯科医師会とTOOTH FAIRYが特別協賛して製作を支援した

映画「Given ～いま、ここ、にあるしあわせ～」は、

多くの観客の予想を良い意味で裏切った、闘病生活を送る家族の愛と幸せの物語です。

難病の子どもと家族がいのちと向き合い、日々、泣き笑いながら生きる姿をつづった本作の魅力をご紹介します。

口コミからひろがった家族の物語

「涙は溢れるけど、最後にはカラッと爽やかな、生きる力をもらえる」「生きているだけで尊い！そんな当たり前のこと、でも忘れがちなことを突きつけてくれる映画です」。2016年1月、手足がかじかむ寒さの東京日比谷の試写会に訪れた観客からは、あたたかい感想が寄せられました。

公開後、口コミやテレビ、ラジオなどを通じて話題がひ

ろがり、日本中で反響を呼んでいる本作は、劇場に足を運ぶ人が絶えず、東京での封切りでは当初2週間の上映予定が、2ヶ月以上延長されました。

本作は、3組の家族と難病の子どもが登場します。家族が一丸となって生きる姿を通して、生きるよろこびと、本当の幸せを問い掛ける物語です。ジャズシンガー綾戸智恵さんの軽快で力強い歌と語りが加わり、重い病気と闘う子どもたちと家族が直面した葛藤に、多くの人が共感を寄せています。

生き方を考えるきっかけに

映画は、(公社)「難病の子どもとその家族に夢を」が主催する、難病児と家族の旅行「ウィッシュ・バケーション」(12ページ参照)に参加した約150の家族の内、3家族に焦点をあて撮影が進められました。

登場するのは、悪性腫瘍の手術で、顔の左半分を失った利音^{りおん}くんと塩川ファミリー、生後2週間しか生きられないと診断された、ももちゃんと米田ファミリー、身体機能が退行する進行性の難病を患^{はるも}う、春萌ちゃんと志藤ファミリーの3家族。

いのちの危険に直面したわが子やきょうだいを想う家族の心境は、想像に難しくありません。わが子を襲った現実には、家族の葛藤が始まりました。はじめは気持ちも落ちこみ、出口のみえない悲しみにくれる日も多いなか、3つの家族に少しずつ変化が起きました。「失ったものを嘆くより、現実をありのままに受け入れて明るく生きよう」(塩川ファミリー)、「何もできないと思っていた小さな病気の娘が、家族の世界を広げた」(米田ファミリー)、「未来より、明日より、いま、を強く思う」(志藤ファミリー)。

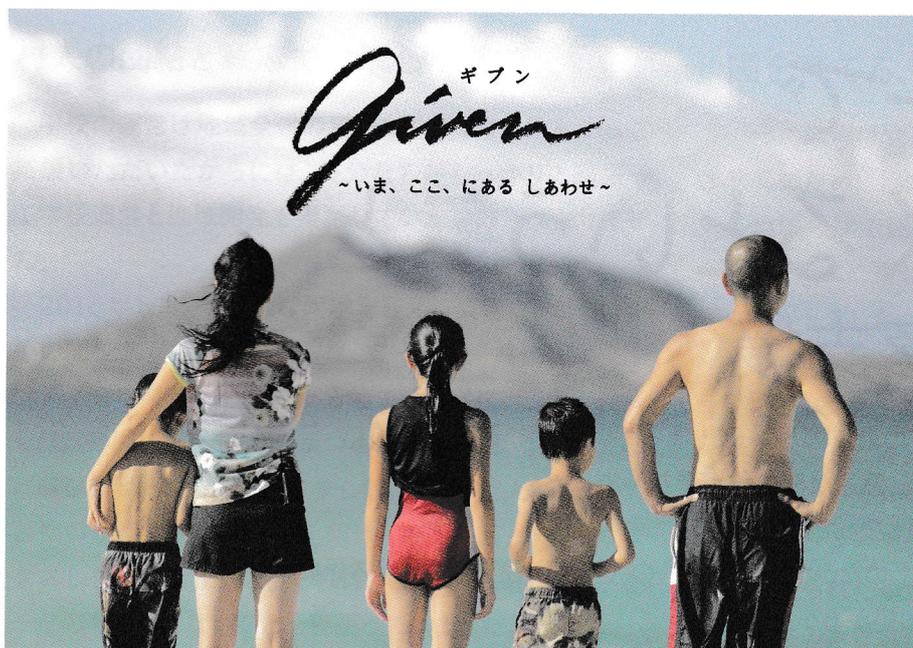
それは、子どもの成長に喜び、驚き、汗をかき、ひたすらに、家族の日々の生活をみつめた先に辿り着いた答えでした。

企画、総指揮した(公社)「難病の子どもとその家族に夢を」の大^{おお}住力^{すみりき}代表理事は、「この映画は、難病のことを説明する映画ではありません。家族が難病の子どもと向き合う姿を通じて自分がどう生きるのか、考えるきっかけになればうれしい」と話しました。

「これは、あなたの映画です」、語りかけるナレーションの言葉と、どんな状況であっても、子どもを育て、慈しむ家族のまなざしに、観客は自分自身の想いを重ねるのかもしれない。



「家族みんなで観てほしい」と語る大住力氏



映画「Given〜

いま、ここ、にあるしあわせ〜」

難病の子どもとその家族の生活に密着し、家族の心境をつづった映画を制作。全国各地で上映し、難病の子どもと家族への理解をひろげています。

プロジェクト・パートナー
(公社)難病の子どもと
その家族へ夢を

実施状況

2016年2月公開、東京、大阪、宮城、愛知、兵庫、
広島等全国で上映。
公式HP <http://given-imakoko.com/>



ミャンマーで 学校をつくるということ 学校建設と村落支援

長期間にわたる軍事政権が続き、アジアの最貧国となってしまったミャンマー連邦共和国。

2016年春、本格的な民政移管が行われ、急速な都市化が進む一方、農村部や少数民族地域との格差が問題となっています。

経済的には決して豊かとはいえない暮らしのなかで、ミャンマーの人々が学校建設にかける思い。

そこには、子どもたちの未来を願う大人の姿がありました。



村人の団結と意志で完成した学校

「学校の運営は地域全体の責任になります。日本からご支援いただいたからには、自分たちがしっかりと頑張っ
て学校運営と地域開発を実施していかなければなりません」

2016年5月、本格的な雨季を迎える直前に、新しい学校の開校式が開催されました。ミャンマー共和国エーヤワディー地域首相の挨拶から始まった式には、地元住人をはじめ関係者約160人がつめかけ、新しい校舎の完成に喜びと期待の声が上がりました。集まった人々は、地域首相の祝辞に感慨深く耳を傾け、時折笑顔と、真剣なまなざしを覗かせました。それは、この学校の完成が一朝一夕のものではないことを物語っていました。

TOOTH FAIRYの学校建設は、「与えるだけの支援」ではありません。村の人々に建設資金の4分の1を負担してもらうことを条件に、学校の建設をおこないます。

ミャンマーの人々の平均月収は約8,000円、農村部での収入はさらに厳しいものです。学校を1校建てるために必要な600万円の内、村人は150万円を集める計算になります。裕福な人も貧しい人も、全員が協力して資金を集めるのです。開校式に臨む村の人々の表情をみつめ、学校建設を指導した^{ひらののぶゆき}平野喜幸氏(NPOれんげ国際ボランティア会)は話しました。

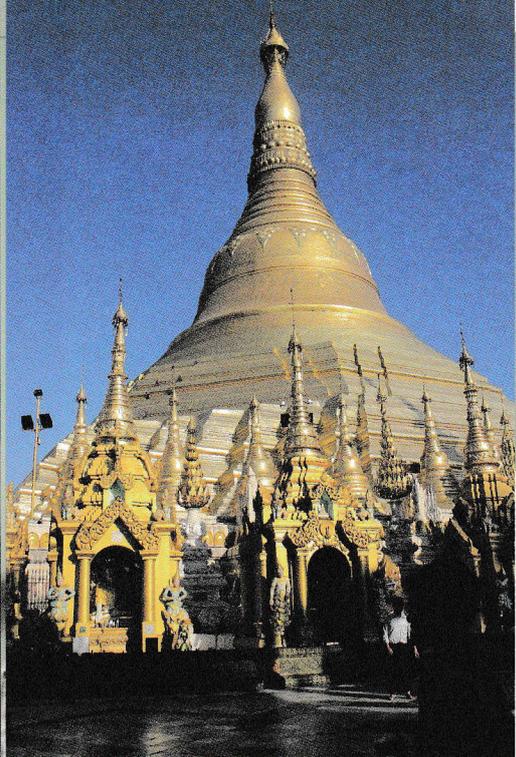
「団結力がある村は必ず発展します。自分たちの意思で目標をたて、手段を考え、実行することが大切です。村を発展させることができるのは、この村の人々だけです。」

国を育てる、子どもを育てる

「今の政権は党の垣根を越えて、すべてが子どもたちの教育のために協力していくよう、努めています。村の人々も地域全体で協力し、より良い方向に変えていきましょ
う」開校式に寄せられた地域首相の言葉に、大きな歓声があがりました。

民政に移管し、まさに今、大きな時代の変化のなかにいるミャンマーの人々。彼らの胸には、芽吹き始めた民主主義と、その礎となる未来のミャンマーの子どもたちへの思いがあふれています。

ミャンマーで学校をつくるということ。TOOTH FAIRYに寄せられた小さな金属のかけらは、アジアの、世界の、未来への架け橋となるのかもしれない。



ミャンマーってどんな国？

TOOTHFAIRYで支援を行うミャンマー。
日本とも深いつながりがあります。
遠くて近い、どこか懐かしい国、ミャンマーをご紹介します！

国の概要

国民の約90%が仏教徒で、日本とも古くから交流があります。親日家も多く、温厚な国民性と、他民族による、州や地域ごとに異なる文化が特徴です。

国名…ミャンマー連邦共和国
民族…ビルマ族、シャン族、カレン族など、135民族
人口…約5,326万人

ミャンマーで支援する必要性

ミャンマーは長く続いた軍事政権から民主政権に移管し、民主化をすすめています。その上で、諸外国からの支援が不可欠であることから、今が最も効果的な支援ができるタイミングと考えています。

また、学校建設支援を行う上で、ミャンマー政府との調整・連携は不可欠です。日本財団は、TOOTH FAIRYの支援を受けて実施している学校建設支援の他に、28,000村への伝統医薬品の配置や、モバイルクリニックによる巡回診療や地雷被害者に対する義足配布事業、薬草栽培の普及にも力を入れています。これらが評価され、平成24年6月より当財団会長の笹川陽平が日本政府から「ミャンマー少数民族福祉向上大使」の委嘱を受け、両国の和平に努めています。

TOOTH FAIRYの資金を確実に役立てることのできる開発途上国という視点からも、本プロジェクトで取り組む貧困支援、教育支援は、ミャンマーを対象とすることが、最も効果をあげられるものと考え、支援をおこなっています。

パートナー団体

認定NPO

れんげ国際ボランティア会

実施内容

2016年3月より利用開始。ミャンマー・エーヤワディー地域での学校建設(6校)

支援金額

408,000米ドル



2015年度に建設した6校の開校式参加した、日本歯科医師会 足立英二事務局長(当時)

2016年5月に行われた開校式には、日本歯科医師会を代表して、事務局長の足立英二さんが出席。新しい学校を楽しみにしている子どもたちや村の人々へお祝いの言葉をおくりました。

「長く続いた軍事政権から民主化へ舵を切ったミャンマーにとって、教育に対する国際協力は不可欠なものです。また、村人の「歯科」知識は乏しく、この啓発が生活の質を高める上で重要だと感じました。」

2015年度に建設した 学校一覧

TOOTH FAIRYはこれまでに山岳地帯のシャン州に10校、平野部のエーヤワディー（イラワジ）地域に14校、合計24校の学校を建設しました。2015年度に建設が完了した、6校をご紹介します。

シャン州

少数民族が多く住む山岳地帯ゆえに貧困層が多い。豊かな民族文化とシャン料理が魅力。

エーヤワディー地域

大きな河が流れる平野部で、ミャンマーの穀倉地帯。水害が多く、雨季には道が水没することもある。大統領などを輩出し教育にも熱心な地域。



Bayagi Gone BEHS (Branch) (パヤジーゴン Branch 高校)

生徒数…586人(小学生77人、中学生320人、高校生189人)

村の戸数、人口…160戸、約700人
特徴…学校には周辺の17の村からも生徒が通っている。小さな村だが団結力は非常に強い。



Yone Daw BEHS (Branch) (ヨンドー Branch 高校)

生徒数…823人(小学生238人、中学生451人、高校生134人)

村の戸数、人口…260戸、1290人
特徴…キリスト教(70%)カレン族の村、村の団結は非常に強い。子どもたちの教育のため、村人は懸命に頑張っている。



Ka Nyin Ngu BEMS (Branch) (ガニング Branch 中学校)

生徒数…302人(小学生149人、中学生153人)

村の戸数、人口…560戸、2,300人
特徴…主な産業は農業。町の中心から南西に車で40分。非常に貧しい。



Hsawk Waing BEMS (Branch) (サンワイン Branch 中学校)

生徒数…335人(小学生146人、中学生186人)

村の戸数、人口…500戸、約2,000人
特徴…町の中心から北に車で1時間半。雨季の交通機関はバイクしか通れない。



Ka Nyin Khwa BEMS (Branch) (ガニングワ Branch 中学校)

生徒数…186人(小学生72人、中学生114人)

村の戸数、人口…219戸、895人
特徴…主な産業は農業。田んぼを購入し、村民みんなで協力して米と豆を栽培する計画。



Kwin Lyar BEHS (Branch) (グインヤー Branch 高校)

生徒数…324人(小学生73人、中学生200人、高校生51人)

村の戸数、人口…675戸、約3,000人
特徴…雨期には3m近くも水に沈むため、高床式校舎が必要。架橋建設を行い、村の経済を発展させる計画。



高山(藤井)由希先生
(公財)ライオン歯科衛生研究所/大阪府

「ボランティアに行く」と言うと、人助けをするってすばらしい、と褒められました。自分もそういう気持ちがあったかもしれませんが、思い返すと、現地の人々の信仰、愛情、そして喜びを含んだ生活に触れて、共感し、魂が癒されるような感覚を得たことが印象的でした。今後も現地の人々に寄り添った支援を行いたいと思います。



江並 正博先生
(江並歯科医院/大阪府)

今回で二回目のボランティアツアーの参加になります。最初は開発途上国のミャンマーでは砂糖の消費が少なく虫歯は少ないだろうと思っていたのに、健診すると虫歯のない子供は非常に少数でした。スナック菓子の普及と、歯ブラシを一家族で一本使い回している現状に、口腔衛生の重要性を認識したツアーでした。



大野 倫子先生
(大野歯科医院/大阪府)

初めての参加でしたが、想像以上の感動、感激、衝撃を受けました。日本では当たり前に見えるような治療がなかなかできず、子どもたちのう蝕の多さに、基本的な予防歯科の必要性を痛切に感じました。子供たちの笑顔が忘れられなく、今でも脳裏に浮かびます。心を込めて出迎えてくれたミャンマーの人たちに感謝です。



大野 眞吾先生
(大野歯科医院/大阪府)

子どもたちの口腔内は、歯科医療の手が届かず、多発性う蝕により悲惨な状態で、まず、この国に足りないのは歯ブラシと予防歯科だと感じました。ミャンマーに限らず、世界中で支援を必要とする人々に、ボランティアを通じて、歯科治療のみではなく、心のケアを含めて、社会貢献をしていく事が必要だと考えさせられました。

歯科医師による ミャンマー ボランティアツアー

寄付だけでなく歯科技術で
ミャンマーの子どもたちを支援するボランティアを実施。
日本から集まった歯科医師を紹介します。



伊藤 雅夫先生
(イトウ矯正・小児歯科/兵庫県)

ミンガラパー(ミャンマーの言葉で「こんにちは」)の元気な挨拶が返ってくる子どもたちと、学校を中心とした教育と村おこしのプロジェクト、TOOTH FAIRYのボランティアツアーに参加しました。歯科医の知識と経験の生かせる有意義なものでした。ミャンマーの人々の喜びと参加者の熱い想いを肌で感じ、ちからをもらいました。一人でも多くの歯科医師にこの体験を知ってほしいと思います。次はあなたの順番です。



坂口 智計先生
(とも歯科医院/兵庫県)

毎年欠かさずに参加しています。わずか数日の滞在ですが、行くたびに新しい発見と出会いがあり、学校で会う子どもたちの成長に喜びを感じます。未体験の感動と満足感、そして今の日本での私たちの生活の快適さ、有難さに改めて気付かせてくれます。普通の海外渡航とは異なる体験をしたい方、ボランティアに興味のある方、ぜひご参加ください。



小山 和彦先生
(小山歯科医院/静岡県)

これまで何度も訪問していても、毎回勉強になります。健診後に宿泊先でボランティアの内容について全員で討論したことが印象に残りました。現地には現地のルールがあり習慣もある中で、年に数回の訪問で我々の価値観を押しつけていないか慎重に確認し、自己満足な活動にならないように努めています。



山崎 猛男先生
(さくら歯科/宮城県)

屈託のない笑顔で迎える子どもたちに接すると、心が穏やかになっていく自分を感じました。それは、幼少の時の懐かしいセピア色の記憶と重なっていることに気がきます。私達日本人も確かにあった、過去の良き地域コミュニティの時代をみているようでした。子どもたちの将来の為、これからもお手伝いしたいと思います。



角町 正勝先生
(角町歯科医院/長崎県)

住民の方々の聞き取りや健診は大変有意義でした。医療行為をまったく受けていないという方々に出会うことが多く、現地の生活の中で、どうしたら口の健康が守れるか、無理がない形で支援ができればという思いがうまれました。



前田 龍一先生
(前田歯科医院/兵庫県)

通訳を通してではありませんが、住民に対して密に接することができたことが、印象に残っています。村の人々の口腔衛生向上には、食事等の生活習慣の調査が欠かせません。実際に住居に上がり、膝を突き合わせて住人と交流できたことはとても大きな収穫でした。



井出 壹也先生
(いで歯科医院/千葉県)

日本の日常とは少しかけ離れたミャンマーの生活を体験できることは、とても有意義だと感じました。日本語があまり上手でない私にとって言葉で表現するのは難しいのですが、いろんなことを感じる事が出来ました。多くの先生方が参加してミャンマーを体験してほしいと思います。



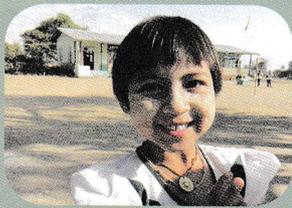
山崎 薫さん
(宮城県)

高校生ということもあり、知識と資格の有無の差を痛感しましたが、まわりの先生方のサポートもあり、様々なことを感じたボランティア。現地では再開を約束した同い年の友達もでき、充実した5日間でした。将来自分がどのような歯科医師であるべきか、考え直し、発展途国の人々に貢献できるようになりたいと強く思いました。



葉 清貴先生
(ハートデンタルクリニック/宮城県)

ただただ夢中で口腔チェックやボランティアをした昨年とは異なり、2回目の参加となった今回は、ミャンマーという国にもっと密着するボランティアができたのでは、と思います。これまでの経験を生かして、色々な方々への情報発信をしていくとともに、継続してよりよい内容になるよう心がけて行動します。



密着！ミャンマー ボランティアの一日

電気もガスも水道もない村での活動って??
ボランティアの一日をレポートします。

早朝

村に出発、車で3時間以上かかることも。

昼前

到着、村の人々や子どもたちがお待ちかね



昼過ぎ

ボランティア開始

→口腔健診チーム

子どもたちのお口のなかをチェック!



→保護者に向けたお話

子どもたちの歯の健康を守るには、まず大人の理解が必要です。この日は歯みがきの重要性についてお話いただきました。



→生活調査

歯の健康と食生活は密接な関係があります。村のお宅に訪問し、普段の食事や生活習慣の調査をおこないました。



夕方

ボランティア終了後、みんなで記念撮影です。



夜

宿泊所にもどり、反省会。翌日以降のボランティアに備えます。

お疲れ様でした!

数字で見るTOOTH FAIRY

都道府県名	参加歯科医院数	都道府県名	参加歯科医院数	都道府県名	参加歯科医院数
北海道	216	岐阜県	122	鳥取県	23
青森県	58	静岡県	190	広島県	163
岩手県	77	富山県	30	山口県	67
宮城県	95	長野県	119	愛媛県	52
秋田県	39	新潟県	137	香川県	67
山形県	69	福井県	29	徳島県	42
福島県	76	石川県	58	高知県	39
茨城県	114	兵庫県	301	大分県	48
神奈川県	379	大阪府	463	熊本県	94
群馬県	90	京都府	146	長崎県	159
埼玉県	202	滋賀県	87	福岡県	188
千葉県	195	奈良県	88	佐賀県	115
東京都	559	三重県	76	宮崎県	53
栃木県	114	和歌山県	291	鹿児島県	92
山梨県	38	岡山県	78	沖縄県	29
愛知県	390	島根県	34		

全国合計
参加歯科医院数

6191

※都道府県別
TOOTH FAIRY 歯科医院数

TOOTH FAIRY 応援歯科医師会、 歯科大学同窓会ご紹介

- 歯科医師会**
- 山県歯科医師会 (岐阜県)
 - 中京歯科医師会 (京都府)
 - 東海市歯科医師会 (愛知県)
 - 河内長野市歯科医師会 (大阪府)
 - 和歌山市歯科医師会 (和歌山県)
 - 伊都歯科医師会 (和歌山県)
 - 小城多久歯科医師会 (佐賀県)
 - 唐津東松浦歯科医師会 (佐賀県)
- 歯科大学同窓会**
- 福岡歯科大学 長崎県支部同窓会
「歯ってん会」(長崎県)

※TOOTHFAIRY 応援歯科医師会、歯科大学同窓会とは？
歯科医師会全体で活動に賛同し、積極的に応援していくと表明していただいた団体。
会でのご寄付やご支援をいただいております。

TOOTH FAIRY 協賛企業・団体ご紹介

- 株式会社 ウィルアンドデンターフェイス
- 株式会社 サンスター
- 有限会社 錦部製作所
- POIC® (専門的口腔感染症予防) 研究会
- ライオン株式会社
- (※敬称略・50音順)



株式会社サンスター様、
ライオン株式会社様か
ら、歯ブラシのご寄付
をいただきました。

メディア掲載…日本歯科新聞(7月21日号「小児糖尿病サマーキャンプ」)/NTV NewsEvery(8月13日放送「難病児キャンプがんばれ共和国」)/静岡県歯科医師会広報誌「歯県伝」(9月5日号「小児糖尿病サマーキャンプ、難病児キャンプ歯科ボランティア」)/サンデー毎日(9月13日号「小児糖尿病サマーキャンプ」)/熊本日日新聞(9月「難病児キャンプがんばれ共和国」、11月3日号難病児支援施設「ボンボン」開所)/テレビ山口 スーパー編集局(10月13日放送「小児糖尿病サマーキャンプ」)/日本海新聞(10月19日号「小児糖尿病サマーキャンプ」)/産経ニュース(10月25日号難病児支援施設「あっと名取」開所)/河北新報(10月26日号難病児施設「あっと名取」開所)/毎日新聞(11月2日号難病児施設「ボンボン」開所式)/SANKEI EXPRESS(11月4日号「TOOTH FAIRYプロジェクト」)

寄付金属リサイクル換金結果

	寄付金額 ※1	寄付件数合計	総重量 ※2	回収期間
第18回換金	40,397,219円	410件 参加歯科医院…381件 個人…29件	105.833 kg	2015年2月14日 ～2015年7月10日
第19回換金	31,464,113円	334件 参加歯科医院…313件 個人…21件	133.055 kg	2015年7月11日 ～2015年11月30日
第20回換金	94,813,652円	1,221件 参加歯科医院…1,200件 個人…21件	281.987 kg	2015年12月1日 ～2016年2月12日

※1…寄付金額=売却金額-分析手数料-預り消費税 ※2…回収袋を開封後、指定容器の重量を除いた重量。ただし日本財団指定の容器以外重量及び有価金属以外の金属、その他の材料等の重量含む

収支報告(自2015年4月1日 至2016年3月31日)

(単位:円)

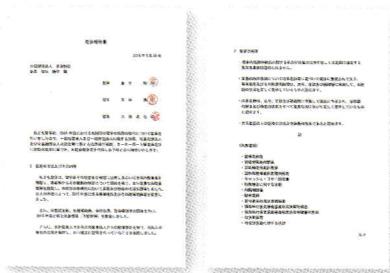
(単位:円)

I. 収入の部	
歯科撤去金属売却収入 ※1	177,904,526
現金寄付金収入	2,391,660
当期収入合計	180,296,186
前期繰越収支差額	334,913,054
収入の部合計	515,209,240

※1…金属売却金額から預かり消費税を引いた額。

※2…本事業は2016年度に延長して実施しますが、当財団の決済処理に倣い、2015年度において未払い計上し、決済いたしました。延長事業については、引き続き経過を支援、監督し、事業完了後、監査を実施します。

※3…金属の分析精製手数料(税込)。



※2015年度監査報告書

II. 支出の部		
施設整備	ミャンマー学校建設	47,674,000
ソフト支援事業	(特) うりずん	128,800,000
	(認特) 難病の子ども支援全国ネットワーク	45,300,000
	(特) 日本クリニックラウン協会	6,000,000
	(特認) シャイン・オン・キッズ	6,000,000
	(特) スマイルリングホスピタルジャパン	2,500,000
	(特) ホスピタルプレイ教会	3,150,000
	(一社) こどものホスピスプロジェクト※2	9,990,000
	(公財) そらぶちキッズキャンプ	2,700,000
	(公社) 難病の子どもとその家族へ夢を	8,000,000
	(認特) 難病の子ども支援全国ネットワーク	7,000,000
(公財) そらぶちキッズキャンプ※2	4,000,000	
(公社) 日本糖尿病協会	8,800,000	
事業支出合計		279,914,000
換金手数料支出 ※3		5,614,771
当期支出合計		285,528,771
次期繰越額		229,680,469

TOOTH FAIRY Q&A



Q1

どんな金属をリサイクルするの?

A.

歯科の治療で使用される金属(金、プラチナ、パラジウム、銀)の他、入れ歯を支えるブリッジや、時計、アクセサリーなどの有価金属をリサイクルしています。

Q2

換金された資金はどのように活用されるの?

A.

本プロジェクトに係る管理費(※)や人件費などは、すべて日本財団が負担し、寄付金はすべて支援の現場で子どもたちのために活用されます。
※金属リサイクルに伴う分析精製手数料、支払手数料及び支払消費税は、金属の換金額から差し引かせていただいています。

Q3

リサイクルする会社はどんな基準で選んでいるの?

A.

金属を引き渡す時には含有金属量が確定できないため、業者の信頼性が重要なこと、溶解技術力は各社で異なることなどから、手数料の優劣だけでなく、会社の規模、実績、自社分析工場を持っていることなどを勘案し、規定を満たした会社と基本契約を結んでいます。

これからのTOOTH FAIRY

国内の難病児支援と国外のミャンマー学校建設の2本柱で活動を続けきたTOOTH FAIRY。
活動開始から8年を向かえ、おおきなプロジェクトに成長しました。
今後は障がい者アスリートへの歯科支援もはじまります。

チャレンジキッズ プロジェクト

国内 難病児と家族の支援

全国7箇所の施設設備を基点に、地域の中で難病児と家族が孤立しない体制づくりをすすめていきます。病院や施設、自宅で子どもの成長を支える取り組み、旅行やキャンプを通して子どもと家族を支える取り組み、難病児と家族の支援の輪を広げる取り組みをおこないます。



スクール プロジェクト

国外 ミャンマー学校建設

2015年度と同様、ミャンマー南西部のイラワジ地域に、6校の学校を建設します。歯科交流では、現地の歯科医師と連携し、口腔ケアをもっと身近に感じてもらう活動をおこないます。



障がい者 トップアスリートへの 歯科支援

障がい者歯科

スポーツと歯の健康は密接な関係にあり、スポーツ歯科は注目されることです。衝撃により口腔内の怪我が多い障がい者アスリートに対し、相談窓口の設置や講習会を行います。



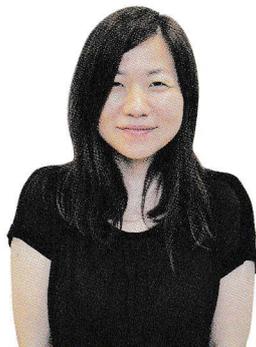
スタッフからのご挨拶



チームリーダー

長谷川 隆治 はせがわ・りゅうじ

難病や貧困と闘う子どもとその家族は、TOOTH FAIRYの支援活動が6000を超える歯科医院と、そこに通うさらに多くの患者様からの寄付によることを知ると、とても喜び、勇気づけられると言います。社会の中で孤立しがちな彼らに、かくも多くの応援団がいることを伝えることも大切な支援活動だと改めて感じています。「ひとりじゃないよ!」というメッセージを届けていきましょう。皆さまの継続的なご支援に心から感謝申し上げます。



小村 悠子 こむら・ゆうこ

活動報告書の取材をする中で印象的だったのは、子どもたちに寄せる大人の愛情でした。状況や国籍は異なれど、困難を受入れ、変化に立ち向かう人々の姿に、何度も心を打たれました。寄付で支援することも、子どもたちを支える何より大きな愛情です。TOOTH FAIRYに関わるたくさんの方々に、心からの感謝を申し上げます。



樋口 さやか ひくち・さやか

これまでに何人もの病と闘う子どもたちと出逢いましたが、周りにはいつもたくさん笑顔が集まっていました。子どもの笑顔には周りの人々を明るく元気に幸せな気持ちにするすごい力があります。そして私も元気をもらっている一人です。皆様からのあたたかいご支援に心から感謝申し上げますと共に、これからもそんな素敵な笑顔が一人でも多くの子へ届くよう、ご支援よろしくお願いたします。

患者のみなさまへお願い

いらなくなった

貴金属や入れ歯を

歯の妖精に

送ってください。



ご自宅のたんすに、昔使っていた入れ歯や金歯・銀歯、
貴金属などが眠っていませんか？ 歯の妖精「TOOTH FAIRY」プロジェクトでは、
入れ歯に含まれる有価金属やアクセサリーなどの貴金属を、
国内外で難病や貧困と闘う子どもたちをサポートする活動に全額役立てています。
参加方法は、お手持ちの貴金属を、
このプロジェクトの実施主体である日本財団にお送りくださるか、
TOOTH FAIRY参加歯科医院に持ち込んでいただくだけ。
ご不明な点などがありましたら、いつでもお問い合わせください。



お問い合わせ・郵送先

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2

日本財団 TOOTH FAIRY (トゥース・フェアリー) 担当宛

電話番号…0120-24-2471 (フリーダイヤル/平日9:00~17:00)

FAX 番号…03-6229-5140

メールアドレス…cc@ps.nippon-foundation.or.jp



日本財団 歯の妖精 TOOTH FAIRY
〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2
TEL 0120-24-2471 (平日9:00~17:00)
Mail cc@ps.nippon-foundation.or.jp



最新情報公開中!
「いいね!」を押して応援してください!
「TOOTH FAIRY」で検索